

きらり


[加古川市民病院機構 理念]

いのちの誕生から生涯にわたって地域住民の健康を支え、頼られる病院であり続けます



CONTENTS

巻頭言 大保副理事長 あいさつ	2	合案内 General Information
NEW TECHNOLOGY	3	
特集「心臓血管センター」	4-5	
診療科紹介	6	
登録医紹介	7	
連携室ニュース	8	



新しい設備と技術、
そして、地域医療への貢献を第一に——

巻頭言

心臓血管センターについて

加古川市民病院機構 副理事長(兼)
加古川中央市民病院 副院長(兼)心臓血管外科 主任科部長

おおぼ ひでふみ
大保 英文

心臓血管センターは循環器内科、心臓外科、麻酔科、看護部、理学療法室、臨床工学室、放射線部など診療科、部門の枠を超えて心血管疾患の治療にあたる、いわゆる部門横断型の組織です。センターとして病棟を運営しているわけではございませんが、紹介いただいた患者さんは主に一般病棟は7階、重症病棟は4階ICU1への入院となります。

当センターの対象疾患は冠動脈疾患、不整脈、弁膜症、慢性心不全、高血圧、大動脈疾患、末梢血管疾患などです。昨年度の主な実績はCAG:839、PCI:394、ペースメーカー:107、ICD:41、アブレーション:180、経食道エコー:222、末梢血管IVR:182、開心術:89、ステントグラフト:23、AAA下肢動脈手術等:64でした。

今回、当センターのトピックがいくつかございますのでご紹介いたします。

このたびの病院統合によって周産母子センター、こどもセンターから発生する小児心疾患患者さんに対応すべく、新たに小児循環器チームが立ち上がりました。主要な対象疾患は先天性心疾患、不整脈、川崎病後冠動脈障害、心筋症などです。詳細は本号の圓尾文子医師、白井丈晶医師の記事をご参照ください。

不整脈領域では心損傷の回避、X線被ばくの減少を目

指して、Stereotaxis社のマグネティックナビゲーションシステム、“NIOBE”を導入いたしました。SF感満載の装置ですが、詳細は本号の岡嶋克則医師の記事をご参照ください。

ステントグラフトの導入により大動脈瘤の治療もオーソドックスな開胸、開腹手術は減少傾向にありますが、弓部大動脈瘤やB型解離など従来では対応困難と思われていた領域にさらに適応は拡大しつつあります。今後の弁膜症への低侵襲治療の広がりなども見据えて、新病院ではハイブリッド手術室の導入をいたしました。詳細については本誌“きらり”7月号脇山英丘医師の記事をご参照ください。また新たに放射線科の坂本憲昭医師が血管内治療の専門家としてチームに加わりました。

また上記以外にも3テスラのMRIや冠動脈疾患治療におけるエキシマレーザーなどが新病院で新たに導入となっております。

地域の先生方からのご紹介があってこそこの新病院、新設備です。院内のチームワークはもちろんのこと、地域の先生方とのチームワークを大切にしたいと考えています。患者さんのご紹介、逆紹介につきましては今後ともよろしく申し上げます。

NEW TECHNOLOGY

加古川中央市民病院では、最新の医療設備・医療機器を導入し、その技術を駆使して治療を行っています。詳しい内容についてご紹介いたします。

マグネティックナビゲーションシステム

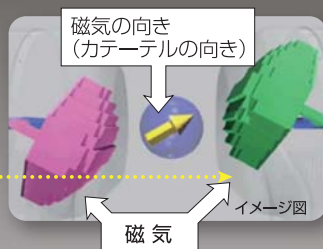
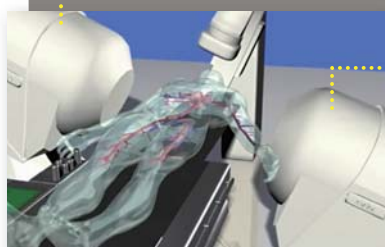
磁気(マグネット)の力を使う新しいカテーテル治療装置です。
今までより安全・正確に不整脈の治療ができるようになりました。

おかじま かつのり
循環器内科 科部長 **岡嶋 克則**

不整脈治療にはいろいろな選択肢がありますが、当院では複数の不整脈専門医やスタッフが協力して最適な医療を提供できるように心掛けています。この度、カテーテルアブレーション専用機器として「マグネティックナビゲーションシステム」が導入されました。現行システムでは国内2台目です。従来のアブレーションは透視画像や3次元マッピングシステムを参考にカテーテルをマニュアル操作して行っていましたが、本機器では磁場を用いてカテーテルを遠隔操作することができます。利点としては、①カテーテルが柔らかく安全性が高い、②患者さん及び医療従事者双方の放射線被曝の低減、③著明な心拡大、静脈奇形等で通常のマニュアル操作ではアブレーションが困難な症例への適応拡大、などが挙げられます。症例に応じて通常のマニュアル操作も可能ですので、アブレーション適応のある患者さんはすべて対応可能と考えています。発作性心房細動、持続性心房細動(持続期間3年程度未満かつ左房径50mm未満程度)、心房粗動、発作性上室性頻拍、心房頻拍、有症候性で心機能低下の原因になるような多発性心室性期外収縮、心室頻拍など、お困りの患者さんがおられましたらお気軽にご紹介頂ければ幸いです。

Magnetic Navigation System

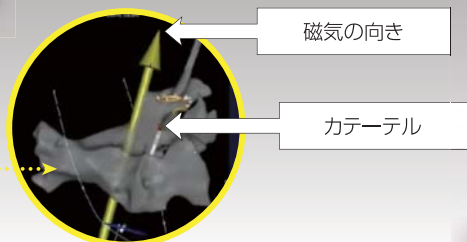
磁気を出し、カテーテルの向きを操作します。



人の手によるカテーテル操作では到達困難な部位でも治療が可能です。



モニタールームで操作します。



カテーテルは柔らかく、穿孔リスクが少ないです。





心臓血管センター センター長(兼)
手術部副部長(兼)心臓血管外科 科部長
わきやま ひで たか
脇山 英丘

心臓血管外科のご紹介

加古川中央市民病院の心臓血管外科について紹介させていただきます。5大センターのひとつ、心臓血管センターの1部門として日々の診療にあたっております。前身は平成19年10月に大保副院長が開設された加古川東市民病院(旧 神鋼加古川病院)の心臓血管外科で約10年かけて診療体制を確立し循環器内科とともに東播磨地域における循環器疾患の治療を行ってきました。これまでに手がけた開心術は950例、腹部大動脈瘤手術が約310例となりました(平成28年10月末現在)。今年4月より坂本医師(成人心臓、大動脈外科)が加わり緊急症例の受け入れがより充実しました。また新たに小児先天性心疾患治療にあたる小児循環器チームが発足し小児心臓外科専門医の圓尾医師が加わったことにより年齢に関係なく循環器疾患に対応出来る心臓血管外科チームになったと自負しております。

開心術は定期手術におよび24時間の緊急症例に対応しています。従来通り循環器内科、生理検査、放射線部門の協力のもと年間100例ほど(胸部ステントグラフトを含む)の開心術を行っています。新病院になり救急部切田部長のご尽力により緊急症例が増加しました。ドクターヘリやドクターカーの導入は我々にとっても衝撃的で遠隔地からの重症例の外科治療を重ねるにつけ外科医としての責任感と使命感に身が引き締まる思いです。かたや高齢患者や多様な基礎疾患を有する症例に対する低侵襲手術(ハイブリッド手術や小開胸手術)のニーズ

も高まってきており今後症例を増やしてまいります。

大動脈瘤に対するステントグラフト(胸部、腹部)症例は170例余りになりました。新病院ではハイブリッド手術室(Siemens社Artis Q TA)が導入されました。最新の技術により短時間で、より低侵襲的に(造影剤減量)、より快適に(大モニター)血管内治療が可能になりました。また放射線科坂本(憲)医師の協力により末梢動脈瘤や緊急の血管内治療が可能になりました。

閉塞性動脈硬化症例では循環器内科、形成外科、看護師、社会福祉士とフットケアチームを形成し創傷治療を含めた治療を行っています。

診療内容は心臓手術(成人/小児)、大血管手術、閉塞性動脈硬化症に対する手術など従来の治療を継続しておりますが、心臓血管センターでの症例検討会を定期的に行き各症例ごとに最適な外科治療を選択しています。ここでは循環器内科の強力なサポートに加えて、腎臓内科、小児循環器科、形成外科、臨床工学室、薬剤部、リハビリ室、さらに看護部から栄養、感染対策チームなど幅広い分野からの意見が得られるため、手術術式はもちろんのこと術後急性期、ICU退室から一般病棟治療期、退院から転院にいたるまでトータルケアが円滑に行えるようになりました。これからも5大センターおよび各専門チームを有する加古川中央市民病院の特徴を最大限に活かし心臓・大血管の治療を充実させてまいります。

小児心臓外科のご紹介

まる お あや こ
心臓血管外科 科部長 **圓尾 文子**

平成28年4月に9年間勤務した兵庫県立こども病院から加古川東市民病院に赴任し、先天性心疾患手術の準備をして参りました。新病院開院後、新生児を含めた小児患者さんの心臓手術が始まりました。また小児に対するECMO(膜型人工肺)治療も開始しました。先天性心疾患の治療にはチーム体制が不可欠であり、当院の小児循環器チームを中心にカンファレンスを通して治療方針を検討し、適切な治療を安全に提供できるようにしています。成人循環器内科、心臓血管外科と協力できるのも当院の特徴であり、小児から成人期に移行された先天性心疾患の患者さんにも対応させていただきます。当院で治療困難な複雑心奇形に関してはこども病院を含めた周辺施設と連携をとって治療にあたっております。地域の皆様にも少しでも貢献できるように尽力する所存です。お気軽にご相談頂ければ幸いです。よろしくお願いたします。



上段：阪田 美穂(小児科)
下段：佐藤 有美(小児科)

循環器内科のご紹介

当科では、心臓血管外科、生理検査・放射線部門などとの協力のもとに、日々心臓血管疾患の質の高い診療を提供しております。対象となる疾患の特徴からも、また、本院が東播磨地区の循環器疾患基幹病院であることから24時間365日循環器内科医が常駐しており救急患者に対しスムーズに対応できるシステムとなっております。冠動脈疾患の診療に関しては、冠動脈造影に比べてより低侵襲な検査としての心臓CTによる冠動脈病変の検査法、冠動脈の形態評価だけではなく血流評価としての心筋シンチも積極的に行っております。クリニカルパスを積極活用し日帰りでの冠動脈造影診断や短期入院での冠動脈インターベンション治療も行っております。冠動脈インターベンションもできるだけ低侵襲を心がけ主に橈骨動脈からの治療を行っております。血栓やプラークを蒸散させるエキシマレーザー、石灰化を研磨するロータブレード、粥腫を切除する方向性冠動脈粥腫切除術や、Drug coated balloonを用いたステントを入れない治療など新しいデバイスを積極的に使用しより適正な治療を行っております。心筋梗塞の再発や突然死、心不全による再入院などを減らすべく生活習慣の改善や症例ごとの最適な薬物治療の重要性などを指導したり心臓リハビリテーションにも力を入れております。また当科は心臓だけではなく、末梢動静脈疾患の診療にも力を入れており、心臓血管外科、形成外科、看護師などと協力し患者さんの足を守ろうとフットケアチームを

心臓血管センター 副センター長(兼)
循環器内科 科部長

かど たに まこと
角谷 誠



形成し下肢閉塞性動脈硬化症や創傷治癒に対するチーム医療を提供しております。下肢静脈瘤に対するレーザー治療、深部静脈血栓症に対するカテーテル治療も行っております。さらに、不整脈チームはペースメーカー、植え込み型除細動器(ICD)の植え込み、心不全に対する心臓再同期治療(CRT)やカテーテルアブレーションによる不整脈の治療を積極的に行っております。特にカテーテルアブレーションは本邦2台目となるマグネティックナビゲーションシステムNiobeを導入し患者さんの被ばくの低減や合併症のより少ない安全な治療が行うことができるようになりました。以上のように当科では、循環器疾患の幅広い分野の診療を高いレベルで行っております。



小児循環器専門診療開始のお知らせ

しら い たけあき
小児科 科部長 **白井 文晶**

2016年4月1日より小児循環器を専門とする2名の医師が新たに常勤で着任し、佐藤医師とともに3人の体制で診療にあたることとなりました。小児循環器診療は小児の循環器疾患(主には先天性心疾患、不整脈、川崎病後冠動脈障害、心筋症)を対象にする分野で、1970年頃に本格的に始まった小児心臓手術の進歩と共に発展してきました。近年では診断技術、外科・内科治療のさらなる成績向上により、胎児期に診断がなされ、出生後、状態が悪化する前に速やかに治療を行うことが可能となっています。そして、多くの患者さんが成人期に達するようになったため、成人期への移行医療も重要視されています。当院でも、昨年、胎児心臓超音波検査専門施設の認定を受けたことに加え、それぞれ小児期、成人期における小児循環器診療を専門とする医師が新たに赴任したことで、より長い視野で患者さんにご家族に寄り添う、新しい小児循環器医療を目指して行きます。



白井 文晶(小児科)
圓尾 文子(心臓血管外科)

泌尿器科

平素は患者様のご紹介をいただき、また軽症例・安定例の御加療を担っていただき、誠にありがとうございます。加古川中央市民病院開院前後の間、診療・治療の難しい時期があり、ご迷惑をおかけいたしましたこととおわび申し上げます。さて、今回はどのような症状の患者様がいらっしゃれば泌尿器科へのご紹介をご考慮いただくかにつきまして触れさせていただきたいと思います。釈迦に説法のような内容で恐縮ですが、泌尿器科は意外に広範囲の領域を扱っております。すなわち、まずは尿路である腎・副腎・尿管・膀胱・尿道、さらには男性生殖器である精巣・精管・前立腺・陰茎といった臓器や部位を全て扱います。また、病態別では癌、良性腫瘍、炎症、結石、機能低下など多岐に及びます。患者様はまず、かかりつけ医でいらっしゃる先生方を受診されることが多いかと存じます。今から申し上げるような症状や検査異常があれば、泌尿器科へのご紹介を考慮いただけましたら幸甚です。①排尿のトラブル

がん集学的治療センター副センター長(兼)
泌尿器科 主任科部長

おか やすひこ
岡 泰彦



(排尿困難、頻尿、排尿時痛、残尿感、尿失禁など)。②尿性状・尿検査の異常(肉眼的血尿、尿潜血陽性、尿混濁、尿中白血球など)。③採血検査の異常(PSA値の高値、腎機能の異常)。④側腹部の痛み、排尿困難、陰のう内容腫大などの症状を伴った発熱。④血尿を伴う側腹部の疼痛発作。⑤CT・エコーなどでの異常指摘(腎腫瘍、副腎腫瘍、水腎症、腎・尿管結石、膀胱の膨満、前立腺腫大など)。⑥機能異常(腎機能低下、排尿機能低下、男性機能低下など)。最後に、新しく導入されました手術支援ロボットダヴィンチXiを有効に運用するためにも、特にPSAの高値例に関しましては75歳未満の患者様であれば、正常上限の4ng/mlの境界域であっても早めにご紹介賜りましたらありがたいです。今後も地域の先生方のご要望になるべくお応えできるよう頑張ってお参る所存ですので、今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

総合内科

平成28年4月付けで、前任地の神戸大学医学部附属病院総合内科より加古川西市民病院 総合内科に着任し、7月より加古川中央市民病院で診療しております。

「総合内科」という名前をお聞きになられても、まだまだ皆さんには馴染みが薄いかも知れません。「総合内科」は、特定の臓器の病気に偏ることなく全体を診ることを得意としている意味で、循環器、呼吸器、消化器、といった特定の臓器の名前の代わりに「総合」という名前がついた診療科です。つまり「総合内科」のイメージとしましては、患者さんが病院を受診される時、あるいは先生方が患者さんを病院に紹介される時に、色々な症状がある、既に色々な病気がある、診断がついていない等、どの内科を受診すればよいかわからないというお困りの時に受診頂く内科と想っていたいただければよいかと思います。

総合内科 主任科部長(兼)
教育支援センター 副センター長

かなざわ けんじ
金澤 健司



わたくしは、前任の神戸大学総合診療部、総合内科にて、2002年よりスタッフとして特定臓器に偏ることなく患者中心の全人的医療を目指した医療を提供すると共に、医学生、研修医を始めとした若手医療従事者育成を行ってまいりました。今後、加古川中央市民病院におきましても、これまでの長年の経験を活かし、受診診療科が決まっていなくても患者さんだけでなく、色々な医療機関を受診されても原因がよくわからない、治療がうまくいかない、といった患者さん一人一人に最も適した医療を提供し、将来の医療を支えていく若手医療従事者を育てるのを使命と考えています。外来入院を問わず様々な専門医の先生方、様々な医療従事者と連携しながら、よりよい医療を皆さんに提供すべく頑張っておりますので、お気軽にご相談下さい。どうぞよろしくお願ひいたします。

登録医紹介

当院と連携いただいている登録医療機関をご紹介します。

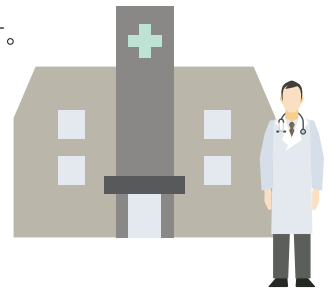
当院では、地域の医療機関の皆さまと共同して、より良い入院診療を提供していくために『登録医制度』を実施しています。現在、300名を超える地域の先生方にご登録していただいております。

これから、地域連携情報誌「きらり」の誌面上で、登録医の先生方をご紹介します。医療連携をさらに充実し、地域住民の多様な要望に応えたいと考えておりますので登録でない先生方におかれましては、ご検討頂けましたら幸いです。

登録医について

登録医の先生方には以下のご対応をさせて頂いております。

- 当院のホームページで「登録医」としてご紹介し、逆紹介させて頂きます。
- 入院患者様の共同診療を行って頂けます。
- 当院担当医の同意があれば、手術・検査に立ち会い、参加頂けます。
- 開放型病床をご使用頂けます。(医科のみ ※当院は、歯科の開放型病床は有しておりません)
- 当院が主催する学術講演会、カンファレンス等に自由に参加でき、当院所有の図書を利用頂けます。
- インターネットからの予約が可能になります。(歯科では、インターネットからのみ当日の抜歯予約が可能です。)
- 白衣・名札の貸出を行います。
- 広報誌等をご送付いたします。



登録医の申請方法

ご登録の申請につきましては、当院の**地域連携室 (079-451-8652)**までお電話下さい。

玉田内科

診療科：内科／循環器内科
駐車場台数：23台

所在地：加古川市平岡町新在家 1192-482

TEL.079-421-2500



院長：玉田 和彦 先生



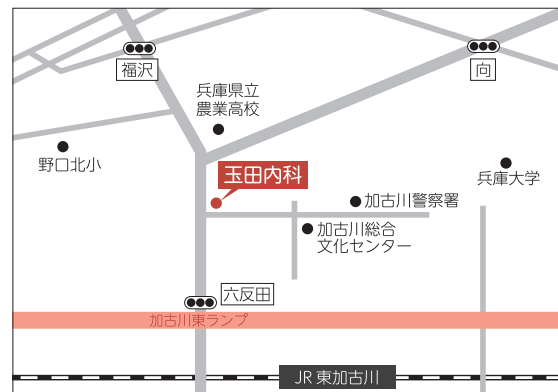
診療時間	月	火	水	木	金	土	日
午前 9:00~12:00	○	○	○	○	○	○	—
午後 16:30~19:00	○	—	○	—	○	—	—

玉田先生から

玉田内科は、加古川警察署、加古川総合文化センターの近くという、わかりやすい場所にあります。

私どもは、患者様と向き合い、患者様が十分納得でき、心がほぐれ、安心できる医療を目指しています。皆様の健康管理のお役にたつように、また、来られる患者様が「ここにきてよかった」と満足して帰られるように、日々診療を行っています。

そして、地域のかかりつけ医として、精密検査や入院などで、加古川中央市民病院に、当院の患者様をお願いして、しっかりと連携(病診連携)をしています。往診も致しますので、ご相談ください。



JR東加古川駅より徒歩10分(加古川警察入口、鶴池タウン)

地域連携会議について

8月25日(木)に、東西病院が合併し加古川中央市民病院となって初めての地域連携会議を開催いたしました。院外から計258名の方にご参加いただき、誠にありがたく感謝しております。皆様の当院に対する期待に沿えるよう、職員一同全力で努力致しますので、今後ともご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。



がん相談支援室について

県指定のがん診療連携拠点病院である当院は、「がん相談支援室」を開設しております。がん患者さんやご家族からのがんに関する不安や悩み、病気に対する疑問など、さまざまなお相談を無料でお受けしております。当院のかかりつけでない方でもご利用いただけます。

受付時間 平日 9時～17時

連絡先 **079-451-5500**(代表)

 担当者にお繋ぎいたします。



ドクターカーの試行運用を開始しました

10月3日より、消防本部指令課より出動要請を受けた事案についてドクターカーの試行運用を開始し、病院前救護体制の整備を進めてまいります。



http://www.kakohp.jp/medical_person/

地方独立行政法人 加古川市民病院機構
加古川中央市民病院

患者支援センター地域連携室

予約専用 TEL(079)451-8651 FAX(079)451-8653
その他 TEL(079)451-8652 FAX(079)451-8654

